る

図書寮蔵紅葉山御文庫本目録 四四

臼 井 和 樹

一、序

録を作成した。今回は集部を扱う。御文庫本の判定基準は前稿まで同様であ前稿に引続き、書陵部所蔵の旧紅葉山御文庫本(以下「御文庫本」)の目

一、集部図書

1. 概要

『御書籍来歴志』(以下『来歴志』)所載本は四二部八七七点。今回集部図書として認定・著録したのは凡て一四六部一七三六点。うち

らなかったと考えられ、現在国立公文書館(内閣文庫)蔵(請求番号 別41『文選心訣』の二部で、前者は慶長御写本ゆえ明治二十四年の移管対象とな『来歴志』所載本のうち宮内省に移管されていないものは、『李嶠百詠』

7『百世詠』)、後者は存否未詳。

書とされていた関係ですでに扱ったので、今回の表には含んでいない。本の量については未勘ゆえ即断はできないが、、貴重書として、選別されたものの中にこれだけあるのだから、全体として集部に多くの明版があるのだっ。また所謂駿府御文庫本が一四部もあるのは、四部全体の半分弱であり、これもまた注意すべきである。なお、『元治目録』で集部別集類(上)として著録される『陸宣公集』(函架番号56-36、来歴志本)は、移管時史部図て著録される『陸宣公集』(函架番号56-36、来歴志本)は、移管時史部図で著録される『陸宣公集』(函架番号56-36、来歴志本)は、移管時史部図で著録される『陸宣公集』(回来を表記)として、選別された。

2. 図書点描

① 『張説之文集』

函架番号44-35

る人物の抄本(写本)二〇巻分を得たので対校したが、それでもなお五巻分いは『文苑英華』『唐文粋』の謂か)の諸本により校し、同十二年葉林宗ならば嘉靖刊本の謂)を借りて写したものを、まず崇禎三年、「英華文粋」(あるいは線装・大本・六冊。天啓七年「何氏刻本」(何某の所持した刊本かであるいは神芸・大本・六冊。天啓七年「何氏刻本」(何某の所持した刊本かであるいは神芸・大本・六冊。天啓七年写嘉靖十六年刊本、明崇禎三年同十二年朱筆校正。

(27)

我々は容易に見られ、 が残っており、 のことは、二-3-④で扱う藍格鈔本にも言えることである)。 入手しようとすると困難な状況もあったことが分かるのが大変興味深い てはるかに出版が盛んであり、 靖十六年椒郡伍氏龍池草堂刊本自体は現在四部叢刊で影印されていて現代の でも対校したが、銭本により四葉分を増補できたという(奥書類については 「来歴志」 にも引用せられる)。これらの奥書から判明する、 さらに同じく後欠五巻ながら銭牧斎なる男の所持していた本 その点ではもの珍しくはないが、 刊本には事欠かない中国でさえ、 同時代の日本に比べ もととなった嘉 ある書物を \subseteq

【陶靖節集】

函架番号11-43

埋もれてしまっていたのを、寛政十年に林家に伝わっていた目録をもとに見 数え上げられているが、 出した由であり、 み明版なのも少々不審といえば不審である。 他の駿府御文庫本はほぼ朝鮮版だが、これと史部の 目錄之寫」には、 本書は所謂 「駿府御文庫本」 実際本当にこの本なのかは検討の余地もあろう。 「靖節集 『好書故事』巻五二所引 二册 (徳川家康旧蔵書) とされるもののひとつに と見え、 駿府御文庫本は他の書籍の中に 冊数に違いがある。 「大御所被進公方樣御書籍 『戦国策』(511 39 [陶靖節 加えて、 0)

表紙の か新しいとかという差異を見出しえないから、 『元治目録』 本書は縹色亀甲繋地龍文艶出表紙を持つが、これと色違い 『石倉十二代詩選』 で三三一冊となっており、 $\widehat{404}$ 72 は、 特段どの冊かで表紙が違っていると 『重訂目録』 この表紙になったのは まで三三〇冊なのが 茶色 『重訂 Ó

のみ見出しえなかった可能性もある。

が改製されたことと軌を一にするとみることも可能だろう。後考を期す。に修補が行われたのではないか。そうだとすると、やはり文化十四年に本箱目録』編纂以後と推することができ、『陶靖節集』もこれと比較的近い時期

『安陽集』

函架番号55

冊。詩人としても知られた北宋の宰相・韓琦の文集である。(空)宋韓琦撰(別録王巌叟撰、遺事強至撰)。清乾隆五年刊。線装・大本・八

紙」の朱長方印が巻四九第一丁に捺されているのも興味深い 際には、 別録冒頭 には「佐伯侯毛利高標字培松臧書画之印」 知られる。 本書は豊後佐伯藩主毛利高翰献納本 順序が乱れ、 また、 に捺されている。このことから、 蔵書印ではないが、 別録を先とし、 第七冊が冒頭に置かれていたことが窺 (毛利高標旧蔵書) であるが、 中国の紙屋の印と思しい が捺されておらず、 献納に先立ち蔵書印を捺した 第七冊首 「川太史

も「晩香書屋」と判明しており、当時の出版状況の一端を知ることができる。そして本書の何よりの面白さは多数の刻工名が明らかになることだ。書肆

④ 『文選補遺』

函架番号55-8

『四庫全書総目提要』「文選補遺」)。 申乙し、また『文選』の欠を補った書物である(『大漢和辞典』「文選補遺」・ 真徳秀(『真西山文集』の著者)の『文章正宗』にのっとり、『文選』の文を 宗陳仁子輯誦、宋譚紹烈纂類。清乾隆二年序刊。線装・半紙本大・一六冊。

てみると、おおむね乾隆刊本の一群と看做してよいだろうと思う。 にも同印が捺されたものがいくつか見られたが、他部などの本も併せて考え本書にも以前触れた例の「茅津高氏監滅^{○或は「第}」印が捺される。集部

⑤ 『〈魁本大字諸儒箋解〉古文真宝後集』 | 函架番号555-94

元風(15) 飛(15) 所謂古活字版である。 宋代までの名文を収めた初学者用の書物。 宋黄堅撰、 404 元林以正註。 60 があるのみで、こちらは五山版である。 当部収蔵御文庫本集部のうち、 慶長十四年刊 近世初期に木活字で出版され (古活字版)。 和版は本書以外に 大本・二冊(14) 皇

これは 一. 同音 である。 は高かろう。 あることからすると、 が知られ、 前の収儲とのみしか述べられない 文後集 和板五部二」と見え、 『古文真宝後集』 では「古文眞寳 後集 収書時期について、 明和時点での注記に 本書についてというわけではなく-ところが、 二」と見え、 自体は、『官庫書籍目録』(延宝目録) 後集 延宝時点で御文庫にあり、整理の結果残された可能性 重訂目録においては『古文真宝』 和板 現状では重訂目録編纂より後、 部数が増加しているが、『御書目録』 続く 「林弥一郎信貞献」 『官府書目』 一冊」とあるから、 -現象面としては極めて不審 (享保八年目録) (信貞は林永喜の子) と 整理されていること 第三巻・詩文には が一切見当らない。 元治目録編纂以 には (明和目 古

3 特徴的 な書籍

はないが、今回は集部を中心として考えてみたい 稿では、 があまりないものや、 みることにする。 経部・史部・子部では、 「点描」 はこれくらいにして、 無論「特徴的な書物群」なるものは集部に限ったはなしで 特徴的なものを中心に「図書点描」をしてきたが、本 これまで知られているものを中心に、 特徴的な書物群に注目して記述して (適宜他部の情報を織込む)。 書誌データ

国分本である。

「内府蔵書」印を持ち、寛文十一年収儲の

まずは 「内府蔵書」 の朱方印を持ち、 『御文庫目録』 から寛文十一年に御

文庫に入ったことが分かる書籍である。

『兪仲蔚集』 (17) (明万暦刊 404 40

『張東海集』 (明正徳刊 404 42

八冊 八冊

『淡然軒集』 (20) 『叢青軒集』 (19) (明刊崇禎十三) 404 49 四冊

(明万暦三十年序 刊 404 54 六冊

『湘皐⁽²¹⁾ (明嘉靖三十四年序刊) 555 65 八冊

があり、 部にも御文庫本以外の同印のある本として『弇州山人四部稿目録』 勲集』『孫子大文』に至っては巡りめぐって御文庫に収まったのだろう。 性格に照せば延宝八年以前とみた方が正確だろう-年以前(『官庫書籍目録』(延宝目録)) 庫目録』)、 順次長崎に渡来し、 53 れら五書とも寛文十一年収儲なのは興味深い。 でに指摘しているが 目録編纂) 「内府蔵書」印が捺される書物のうち、 はじめの四つに「内府蔵書」印が捺されることについ が文政十一年 以前の御文庫収儲である。基本的には江戸前期、 『常熟県水利全書』(42-82)と (佐伯毛利本)、 御文庫に入るものも市中に流れるものもあり、 (「王業浩印」 『孫子大文』 の押捺も共に指摘)、 『論存』 『汪禹乂集』 -実際のところ目録の編纂経 403 1 54 403 一方で、 111 『皇甫司勲集』 ては『来歴志』がす が延宝七年 555 I 集部以外も含めて 「湘皐集」 が天保七年 延宝八年以前に 89 が享保元 も含めこ 国 (『御文 404 326 訂

れる蔵書印・各書の版種・分類であろう。 図書群の離合集散がよく分かるからである。 く考えなければならない。 この 「内府蔵書」の蔵書群を考察する上で欠かせないのは当然ともに捺さ どのような人々の手を渡って伝わってきたのか、 とくに蔵書印の組合せの問題はよ 版種も明刊本が多いようだ。

内閣文庫 に A

にも見える。 た 『寵寿堂詩集』 分類としては、 他機関の蔵書と併せてよくよく検討したいものである。 158 見たところ各部に亘るものの、 148 清版) に同文の印があるが、 集部に偏っているよう 陰刻ゆえ無関係だ

明熊人霖校崇禎十三年刊本

崇禎十三年ころ同 書肆 (工房)で作られたと思しきものがある。 555 1 29 二冊

『駱臨海文集』 (明崇禎十三年序刊)

『宗忠簡公集』 (明崇禎十三年序刊)

ある。 取られた断片を見せられているが如くである。なお、熊人霖関係書として、 12・8内外であり、 である点は見逃し難い。この事象もあるひとつの傾向に属する蔵書群から切 室分藏」 これらは版式が共通しており、 ともに熊人霖なる人物の校で、 が共通して捺される。しかもともに正保二年収儲 『皇明名臣言行録繹』 本文には傍点や圏点といった符号を伴い、 四周単辺無界8行19字、 同人の序がある。蔵書印も朱方印 『義烏県志』 555 匡郭は19・0× (『御文庫目録』) 50 欄外に頭注が 二冊 石

明曹荃校崇禎十三~十四年頃刊本

自身の詩文集として編輯)、

版式が先の両書と似通っているのは®だけだ。

『南栄集詩選』

(集44-3) があるが

(®は自身が知県として、©は

(史67 - 9)·B

· 史 177

先のものとは別に、 ほぼ同時期の明崇禎十三~四年頃に別のひとつの工房

東皐子集 (明崇禎十四年序刊) 555 28

で出版されたらしい図書の一群である。

『宋学士集』 (明崇禎十三年序刊) 555 I 31

『李北海集』 ③1〕 (明崇禎十三年序刊) 555

33

『蕭文元集』 (明崇禎十三年序刊) 555 40

冊 冊 冊

> 数が刻されている。 本文の版式は左右双辺有界9行18字、 その上、これまた共通した形式の校者曹荃による序が冊(3) 匡郭19・8×13 · 5内外、 版心に字

首に置かれている。

またこれと類似の性質をもつのが かたちで別人の手に渡り、さらに本邦に齎されたことが容易に想定されよう。 おり、同じ人が、同じ工房で作られた書物を同時期に購求したものが、 そして、これらにはいずれも朱丸印 「潁川」・ 朱方印 生34 が捺されて 塊

ちょうしょう (36) 曹荃の名は見えぬ。 たが、 で、 ているが、 冊首、「磐生」が巻首に捺されている例がある。また、 になるところだ。ちなみにこの本にも「潁川」「磐生」両印が捺されている。 事業と工房とをつないだのが曹荃だろうか。工房と曹荃との関係が非常に気 序」があって、これが他でもない曹荃の撰なのである。そうするとこの出版 のだろう。第四冊 数が刻されているのはもちろん、加えて刻工名もある。但、 したように常に一緒に捺されているわけではない。 -が、楊烱・駱賓王・王勃・盧照鄰の所謂初唐四傑の集の編纂刊行を図 版式も左右双辺9行18字、 (『黄文献公文集』 「未及三家而歿」したのだといい この 別人の印とみるべきである。さらには、 後述の藍格鈔本『李趙公集』 「潁川」 『初唐四子集』 (実のところこれが真の首冊と思しい)に「刻初唐四子集 おそらくは弟紹科らにより前四書と同一工房で作られ 磐生 555 I (明崇禎十三年序刊 62 印は、 匡郭19・8×13・3とほぼ同一、 佐伯毛利本)に 同じ丁にある場合が多い (張紹科張爕 『張曲江集』の親本の校者である 「潁川」印とともに捺され したがって朱色は似通 「磐生」印にはもう一種 両印は註 「駱侍御集序」)、 555 本書の場合、 120 版心には字 (34) で示 表に 明

る『七十二家集』、初唐の総集である『初唐四子集』があったわけだが、こ だった張爕だということである。すでにみたように張爕には隋以前の総集た れらの編纂者がいずれも先に③でみた『初唐四子集』の編纂刊行の企画者

他にも唐人の集の校訂もしていたということなのだろうか。あるいはこれ

らを含む総集があったのかもしれぬ。

この他、

朱方印 27

「懐玄」を捺す嘉靖年間の刊本

(『庾開府詩集』

明

(嘉

*

刊

555

二冊)・『薛考功集』

(明嘉靖十四年序刊、

555 70

ところで書写され、

る。

書目録』 で推定の域を出ぬが、この四書は同時期の収儲と考えてよいのではないか。 さて、 享保八年以降、 には多く収儲経緯が示されているものだが、これらについては記述 冒頭に掲げた四書は 明和以前という以上は現時点ではいえない。あくま 『御書目録』に初めて見えるものである。 御

藍格鈔本

次いで、 藍格鈔本の一群である。

『李趙公集』 (明鈔)

『張曲江集』 (明鈔)

> 555 30 三冊

32

555 I 三冊

これらは書式が揃っているという点から見て、おそらくは明代中国の同じ 本邦に持ち来られたのだろう。そして注目すべきは、こ (2) (1)

の三部がある由である。 他に『重訂御書籍来歴志』 冊 (来歴志・始末記共、 (七冊) もあるという。 抄出) (31)

の注記を落したものと見るべきか。 (1)は史部目録の解説の中で追補した、 卷一冒頭 『御書目録』 『四書集注』に「大猷院様御前出候由」 (引用者注:神習文庫本) は注記加った後の新しい写本 の如き注かと推する。 国立国会図書館の同名書と同じ本だ 市川氏は 0) 「恐らく共通の祖本に 如き注記が多数存在 国会図書館本はそ

もあり興味を惹かれるが、これ以上の材料がないから、紹介のみにとどめる。

紅葉山御文庫 の目 録 類 追 補

類につき補足する。 新たに見出したものではないが、これまで述べてこなかった御文庫の目録

まずは無窮会

(神習文庫)

所蔵資料である。

なお、

現状では実見できぬの

で、さしあたりそれらについて記述したものから拾っておきたい 九七二年)によれば、 市川任三「井上頼囶翁旧蔵書の目録類について」(『東洋文化』復刊二九

『官府書目 紅葉山御蔵』 冊

『御書物廿部考』

冊

『元治増補御書籍目録』

(3)

それぞれについて市川氏の解説を基に概略を述べる。

か。」と考察されるが、蓋し注記を附した本が先にあり、 出で然も本文庫本 野文庫蔵 するという。斯くの如き注記は、例えば以前紹介した東北大学附属図書館狩 が、

を調査した結果の報告書といい、 市川氏が内容を検討された結果、 末尾に「唐医書写本々分二十部拝見仕相調 多紀元徳が御文庫中の医書の写本

(2) lt

年十一月)と見、 氏はこの成立を、 であるから、 右之趣ニ御座候、 元徳が広寿院と称した時期を法印に叙せられた時(寛政二 寛政二年十二月成立かと考える。従うべきであろう。 目録中に見える『幼々新書』の借鈔が寛政三年(多紀元簡 /十二月 多紀広寿院」とあると記す。墨付一一丁。

のかと推測される。その通りだろう。 録』原本)の抄出本で、 ③は、「宮内省図書印」を朱にて写すところから、 市川氏は井上が図書寮に関係した時代に鈔写したも 図書寮蔵本(『元治目

これも実際に尊経閣文庫に赴いて調査を行いえなかったので、紹介にとどめ、 詳細については他日を期すこととさせていただきたい。 次いで、尊経閣文庫にも三種の御文庫目録が存することを紹介しておく。

学本の各冊扉の内容とほぼ同じである。 書籍目録」とあり、 本と比して間々脱がある他、 舎書目」とあるところから、昌平黌の書目とされたようだが、内題に「官庫 「官庫書籍総目」として全体の目録があるのが違っているが、これは鶴見大 まずひとつ目は 『官庫書籍目録』 (請求記号:六一○○-三)を瞥見したところ、内容的には鶴見大学 『昌平学舎書籍目録』(19-65)で、左肩打付外題に「學 の異本で、延宝目録である。東京大学史料編纂所所蔵の また内容的にも、 前稿にいう附点本の扱いが異なる。 先に二度ほど触れた鶴見大学図書館所 第一冊首に

ては述べえぬので本稿では説明を差控え、紹介するに止める。 の注記のある本だ。 分類目録』にも 〝(紅葉山文庫)〟との注記がある。書名の脇に収儲経緯など 〈請求記号:六一○○ - 四)を一瞥した程度でいつの目録かなど詳細につい 『秘庫書目』 本書については私自身東京大学史料編纂所所蔵の写真帳 (19-55) である。こちらは 『尊経閣文庫国書

> に御文庫の目録たる旨の注記がある。本書については写真すら見ておらず、 他二書とともに後日改めて紹介したい。 最後が 『御文庫目録』 19 66 で、 これも『尊経閣文庫国書分類目録

四、 佐藤劉二のこと

意して概略を述べたい。 り宮内省への移管という一大画期について、「モノ」ではなく「ヒト」に注 本稿では、これまで詳細を扱ってこなかった明治二十四年の内閣記録局よ

標題に掲げた佐藤劉二(忠淳)という男である。 ここで触れたいその人物は、かの田中光顕伯 (青山) や股野琢ではなく、

調べていたのだが、ある程度輪郭が分かってきたので、ここでそのあらまし を述べておきたい。 ている人物として登場してきた。かねてよりどういう人物か気になって折(4) 録』の著者として、また明治の図書寮の目録『帝室図書目録』に書入れをし これまで御文庫本について書いてきた一連の拙文においては、 『道蔵経目

すなわち、移管作業、そして図書寮における整理・管理に関する全般に携 よって彼の履歴をさらっておくと、 の御文庫本について、彼なくしては語れない、最重要人物なのである わってきた人物なのだ。決して高官ではないが、 まずは宮内公文書館蔵 結論から先に言えば、彼は御文庫本とともに、移管されてきた、男である。 『退官者履歴録 別表1の如くである。 明治の移管、そしてその後 (識別番号88269) に

特に御文庫本との関係が密になると考えられるのは明治二十一年に内閣属

これはまさしく〝図書とともに〟やって来たことを示唆している。とされたのは、まさに図書寮に内閣記録局本が移管されたときのことでありとなり、内閣記録局勤務を命ぜられてからだが、明治二十四年三月に図書属

著作を物している。次いで、当部に収蔵されるもの二つを掲げてみよう。実際彼はこの後図書寮にて内閣記録局移管本、中でも御文庫本に関連する

① 『〈校訂〉書籍来歴志 後編』 102 – 148 二冊

② 『道蔵経目録』

111 178

(年文劉弐) は「右、 めて浄書したもの。 されたとのことと深く関係しているものと思しい。 他日ヲ俟チテ詳検セントス、 右、 まず①だが、これは当部蔵 明治廿四年十月 經史子集四巻ニ載スル所一々本書ニ照シテ校訂ヲ加へ、)゚」とある(いずれも朱筆)。これは移管図書が来歴志に基いて選定 閲、 聊脱誤ヲ正ス、其ノ疑ハシキ所ノ者、 もとの『重訂御書籍来歴志』 圖書属佐藤劉二 『重訂御書籍来歴志』 明治廿四年九月廿一日 (朱印)」とあり、 第二冊の途中、 尚尠 102 図書寮員佐藤劉二 145 **/**ナカラス、 また第三冊尾に を校訂し、 /間管見ヲ記 巻四尾に、 将二 改

ついての著作と見てよかろう。『道蔵経』もすでに見たとおり御文庫本ゆえ、やはり明治二十四年移管本に細目録で、冊尾に「明治廿七年七月四日脱稿 圖書屬佐藤忠淳編」とある。次に②だが、表題のとおり当部蔵『道蔵経』(⑭-1(拙稿子部参照))の

けたりしている にはジェームズ・レッグ 彼はもともと漢学に明るい人間だったとみられ、これより先、 の写本 (明治十二年)。鷹見星皐 (一七五一~一八一一)の (関西大学図書館蔵、 (Legge, James 請求記号24 理雅(45) 『漢学入門』 118 は、 明治三十一 海軍省時代 に点を附 翠竹

> なったのかは未だ明らかではない。 見出されて内閣記録局に移ったのか、あるいは移管の仕事に従事するようにお、同じ年、『西川如見遺書』の後序を書いている)。何故に、また誰に才を年彼の手によるもののようだが、これも同様の傾向に属するものだろう(な

を、 を校している。 はその点検作業の結果が細かく墨朱で記録されている。 の点検といった作業 (4) 所掲拙稿) この後、彼は図書寮の蔵書の点検 また、会津出身ということから、 彼が明治二十八年に書写・寄贈したものを底本とするという。 『続会津資料叢書』所収 『帝室図書目録』 -に従事しているらしく、 (宮内庁図書館蔵、 『会津資料叢書』 『告学者文』 具体的には図書の存否、 は、 すでに見たとおり 分類記号K029-11) に のうち 「旧藩主公家」 『会藩編年畧』 冊数や番号

*

だったことなどを補足して終えることとする。 (補遺編に続く)扱うとともに、補遺としてこれまで述べてこなかったこと、調査が不十分けであるが、この他に図書寮文庫には国書が数部あるので、次回はそれらをこれで明治二十四年移管のものを主とした漢籍四部すべてを網羅できたわ

[附記]①前号拙稿においても記しておいたが、前々号拙稿 たのは、 に訂正する。 庫本目録 (三)」の、 (史部)」は、 全く著者の不注意による体裁の不統一である。ここに併せ注記する。 ② 前稿 「図書寮蔵紅葉山御文庫本目録 (子部) 紅葉山御文庫本の一覧表「図書寮蔵紅葉山御文庫本目録 0) 「蔵書点描」の項の各書名に 『 』を欠いてい (子部) の誤りゆえ、 「図書寮蔵紅葉山御文 改めてここ

- り紙。「日本政府圖書」印押捺。 行(23・3×16・5)。朱点・墨書訓点符号類あり。「弱」「第九十七函」朱筆ハ行(23・3×16・5)。朱点・墨書訓点符号類あり。「弱」「第九十七函」朱筆ハ色無地表紙28・6×21・3(二本取)、左肩無辺題簽墨書。四周単辺有界毎半8年)。 細国立公文書館(内閣文庫)蔵。唐李嶠撰。慶長十九年写(慶長御写本)。細
- (2) 目録書名「陸敬興集」。『来歴志』は「陸宣公集」とする
- 3 装·大本·六冊。黄朽葉色無地表紙27·3×16·8。左肩双辺刷題簽中墨書19 朱長方印「季振宜/臧書」(篆文陽刻)、朱方印「馮氏/臧本」(篆文陽刻)、 華文粹諸本校過、至己卯、 同書影印参照)、「此書先借何氏刻本印抄、因誤多不可改正、〇四部叢刊所収)、「此書先借何氏刻本印抄、因誤多不可改正、 集記」尾に「嘉靖丁酉冬十月朔旦椒郡伍氏龍池草堂家蔵本校刊」(墨書原刊記 9 × 3 · 2 ° 省図書印①押捺。「来歴志本」云々のハリ紙痕。図書寮ラベル。 于含碧樓」(墨筆) とあり。朱方印「御史/之章」(篆文陰刻)、朱方印「季振宜 処…是時正閱此書、便信筆記此、/孱守居士(朱印)」(墨書)、第六冊尾「天啓 冊尾「崇禎己卯、借葉氏抄本校過、」(朱筆)および「己卯九月十一日夜、 庚己卯、 姑俟之、錢牧齋云、後缺/五巻、非全書也、」(朱筆)、同筆にて第二冊尾 ·卯八月廿九錄完、十月初九釘成袠、二十九日粗校一/過; 「空居/閣臧/書記」(篆文陽刻)および佐伯毛利①・秘閣図書之章①・宮内 (篆文陽刻)、朱方印「滄/葦」(篆文陽刻)、朱長方印「上黨」(篆文陽刻)、 唐張説撰。 用錢牧齋抄本/校、共増四葉、 本文書式無辺無界10行20字、字高19・4。朱筆書入。首冊首「説之 明天啓七年写嘉靖十六年刊本、 始得葉林宗抄本、 十月十日」(朱筆)、同人別筆にて第四 /對得二十卷、存五卷、 明崇禎三年同十二年朱筆校正。 崇禎庚午、 未 護淨居士記 (× 遇_巡 / 先将英 夢到一 「崇禎 朱方 美本、 線
- 4 内法○以19·0×11 龍文艶出表紙24・4×15・2 (押八双あり)。左肩無辺題簽墨書 題簽痕))。 ~ 四 晋陶潜撰。明万暦十五年刊。線装・半紙本大・四冊。〔改装〕縹色亀甲繋地 陶淵明集序 13 5 × 3 · . 9 ` (梁昭明太子 [蕭] 行書体・漢文、 但、 下四分の一 統撰 句読点訓点等符号類なし、 切断か (左右双辺有界6行12字 (18·7×3・0程度の 「陶靖節集 版心は白 (匡郭

- あり。 五二丁 背小口書「一(~四)」。首冊表々紙「來歷志本前編」(朱筆) 書同梱)。 曆丁亥休陽程氏梓」。蔵書印、 之一終」(巻九は尾題を欠く)。後付類なし。巻十末(第一五丁表最終行)刊記「萬 巻八=九丁)、第四冊三六丁 (巻九=二一丁、巻十=十五丁)。尾題「陶靖節集巻 五丁、巻四=二四丁)、第三冊三八丁(巻五=一五丁、 卷之一」。版式、左右双辺有界9行18字 撰 式本文同然、 点訓点等符号類なし、 口下向単白魚尾、上象鼻中 (版式本文同然、 (版式本文同然、 版心は白口下向単白魚尾、上象鼻中「陶集」、中縫中「巻幾 (前付類前述、巻一=一一丁、 上象鼻中 上象鼻中「陶集」、中縫中「總論 上象鼻中「陶集」、 小字注双行、 「陶集」、 「陶集」、中縫中 秘閣図書之章①、宮内省図書印①。 中縫中 題低二格、 巻二 = 一八丁)、第二冊四九丁 中縫中 「目録 18 7 × 11 9 序 注低三格、 幾 傳 幾 六一。 幾」)三丁。 卷六=六丁、卷七=八丁、 五丁。 九丁。 間々本文中 楷書体・漢文、 陶淵明傳 ハリ紙。旧函存 陶靖節集目録 内題 図書寮ラベル。 陶靖節集總論 \bigcirc (巻三=1 「陶靖節集 (昭明太子 第一冊 句読 版
- 『近藤正斎全集 三』(国書刊行会、一九〇六年)一六七~六八ページ。

5

- 国策』『陶靖節集』の二部だけで、あとは朝鮮版である。 集』四冊・『李白集』一五冊・『文山集』一五冊の五部だが、実際明刊本は、『戦(6) 寛政に明刊本と判断されたのは『戦国策』三冊・『陶靖節集』四冊・『陸宣公
- ページ)には「明版 四冊」とある。(7) 『好書故事』巻五二所引「現存目錄」(『近藤正斎全集 三』、一六五~六六
- 8 るので、 いない。 漢籍善本書目』には「每册首有「秘閣圖書之章」印記」とあるが、 12・9)、版心に刻工名。秘閣図書之章①・帝室図書之章⑤押捺。 文艷出表紙24·5×16·2、 (上下二函のうち、 明曹学佺編。明崇禎四年序刊。線装・半紙本大・三三一冊。茶色亀甲繋地 その分の容積を考慮すると、 下函では最初の方だけというのも中途半端だが、今は当部補の帙に収ま 上函と下函に収められたもの最初の方だけ)にしか捺されて 左肩双辺刷題簽。左右双辺有界9行18字 実際のところ移管前の (帙なしの) なお、 約半分の冊 <u>19</u> **「図書寮** . 3 ×

だけにしか捺されていないのではないかと推する。

- 9 四冊九〇丁、第五冊八三丁、第六冊八六丁、第七冊九八丁、第八冊八二丁。尾題 韓魏王家傳巻第一(~十)」(○但、巻八)。版式、左右双辺有界10行21字、 中縫中「韓魏王別錄序 中縫中「安陽集目録」)四一丁。第七冊に忠獻韓魏王別錄序(「乙卯七月十五日涇 双辺無界9行16字、 晚香書屋藏版」、 香色無地表紙26·3×17·3 (二本取、白色角裂存)。 中・下)」、遺事尾題「忠獻韓魏王遺事」、家伝尾題「忠獻韓魏王家傳卷第一 (~ 伝は「家傳巻第幾(幾」)。第一冊一〇八丁、第二冊一〇〇丁、第三冊八五丁、第 ×13・5、楷書、漢文、句読点訓点等なし。版心は小黒口双向黒魚尾、 口双向黒魚尾、 安陽集巻第幾 「忠獻韓魏王別錄上(・中・下)」、遺事内題「忠獻韓魏王遺事」、家伝内題 ·安陽集巻第二 (・三・五~二十三・二十五・二十六・二十九・三十一・三十三 ·四十・四十二~四十七・四十九・五十終)」、別録尾題「忠獻韓魏王別錄上 . 觀察推官前主管大名府路機宜文字王(隔一格)巖叟序」とあり(版式本文同然. 宋韓琦撰 一 (~八止)」19・8×3・1。首冊に封面 (別録王巌叟撰) 中縫中 幾」(別録は「別録上(・中・下)幾」、遺事は「遺事 補刻韓魏公文集序(「乾隆五年六月後學沈徳潛撰」とあり(左右 19 · 4 × 13 · 8 一」))一丁。内題「安陽集巻第一(~五十)」、別録内題 「補刻韓魏公文集序」))三丁、安陽集目錄(版式本文同然 遺事強至撰)。 楷書、 漢文、 清乾隆五年刊。線装・大本・八冊。 句読点訓点等なし。 (黄色)「宋韓魏公/安陽集/ 左肩双辺刷題簽中墨書「安 版心は白 中縫中 18 · 3 「忠獻 家
- (趙文、左右双辺有界7行4字)四丁、「附前明何方伯諱喬新原牌」(成化十四年、(10)宋陳仁子輯誦、宋譚紹烈纂類。清乾隆二年序刊。線装・半紙本大・一六冊。(横幅測れずり))あり。図書寮ラベル。下小口書「安陽集 一(~八)」。

九首に蔵書印ではないが朱長方印

「川太史紙」(楷書陽刻、双辺、縦

4 3 十終)」。刊記なし。各冊首に、秘閣図書之章①、宮内省図書印①、朱方印

、蕙春/書印」(篆文陰刻)2・5×2・5、第七冊首に、佐伯毛利①印。

- 書寮ラベル。下小口書「文選補遺二 (・一・三~十六)」(順序に錯誤あり)。 陰刻)3·4×2·4、佐伯毛利①·秘閣図書之章①·宮内省図書印①押捺。 尾刊記「茶陵東山/書院刊行」(四周双辺)。朱長方印「茅津高/氏監臧」 終」)。「重刻古迂公文選補遺跋」三丁(陳上慶跋一丁、陳文煜乾隆跋二丁)。目録 第一六冊七八丁。尾題内題同然(間々尾題を欠く。大尾のみ「文選補遺巻四· 同上)、第一五冊八九丁 六八枚(巻二八第九丁欠、白紙を補う)、第一四冊墨付六九枚(巻三二初二丁欠) 九冊五九丁、第一〇冊七二丁、第一一冊八一丁、 第四冊六三丁、第五冊六三丁、第六冊四七丁、第七冊六九丁、 下象鼻中「原本缺」とある丁あり。 号類なし、 双辺有界10行18字(間々四周単辺の丁あり)、 補遺目録」(左右双辺有界10行18字)、 界10行18字)二丁、「重刻文選補遺凡例」(左右双辺有界10行18字) 左右双辺有界10行18字)一丁、「重刻古迂公文選補遺序」 注小字双行。 版心白口下向単黒魚尾、 (但、巻三四第二五丁を欠き、第二一丁を誤入第二一)、 第一冊八七丁、 四二丁。内題「文選補遺巻一」。 20 · 6 × 13 · 6、楷書·漢文、 第一二冊七二丁、第一三冊墨付 上下象鼻中原則文字なし(間々 第二冊六六丁、第三冊六五丁 (乾隆二年、 第八冊七九丁、 二 左右双辺有
- (11) 御文庫本としては、駿府御文庫本(51-47)がある。
- 未真徳秀撰、明黄鞏等校。朝鮮刊(銅活)。線装・大本・一五冊。碧色亀甲繋文艶出表紙30・5×20・3、左肩無辺題簽墨書。四周単辺有界13行21字(23・0×17・6)
- (12) 当部蔵本の例としては、古賀本(202-194、一○冊)がある。
- 13 伯毛利本) · 『易経揆一』(如 『竹雲題跋』 58 おさらいしておくと、経部に『三経附義』(41-49、 (清乾隆二十六年刊) 清乾隆二年序刊) · 『厳太僕詩集』 555 1 119 (請求番号62 清康熙四十五年序刊)。 がある。 59 1 1 52 清乾隆三十二年序刊)・私蔵 清乾隆十六年刊、 555 1 83 他機関等所蔵本に、東京国立博物館蔵 清乾隆元年序刊):『中州名賢 同)集部に 清乾隆二十八年刊、 『万充宗先生経学五 『文選補遺』
- (4) 宋黄堅撰、元林以正註。慶長十四年刊(古活字版)。線装・大本・二冊。改

冊表々紙右下に「乾」「坤」の墨書 巻一〇第一一丁表尾題後に「慶長十四己酉年陽月下旬(隔半格) 尾題「魁本大字諸儒箋解古文眞寳巻之一(隔一格) 幾」。第一冊九〇丁(前付類前述、 の刊記。秘閣図書之章②・宮内省図書印①押捺。図書寮ラベル。小口書なし。 行末(下から四〜五字目より)。版心は中黒口双向花口魚尾、中縫中「古文后幾 典拠は白抜き活字を使用、 箋解古文眞寳巻之一 (隔一格) 于江後學鄭本士文叙」とあり、 装薄海松色亀甲繋地龍文艶出表紙28·8×21·1 (二本取)。 (巻六=一二丁、巻七=一○丁、巻八=一○丁、巻九=一四丁、巻一○=一一丁)。 (第一三丁版心「十二」とあり) 巻四=二〇丁、巻五=一八丁)、第二冊五七丁 (版式本文同然、 句読点訓点等符号類なし、傍訓等なし、注小字双行(○印を冒頭に附す)、 中縫中「古文后序一 一 (~二)」) 二丁。諸儒箋解古文眞寳後集目録 中縫中「古文后目録 一之五 (~六之十)」 21·4×4·1。 その他注中間々白抜き活字あり。 四周双辺有界8行17字、22·8×16 後集」。版式、四周双辺有界8行17字、 卷一=二〇丁、卷二=一四丁、卷三=一三丁 一(~三)」)三丁。内題「魁本大字諸儒 後集」。後付類なし。第二冊 古文真寶叙 題低二格、 左肩無辺題簽墨書 (「至正丙午孟夏 作者名は 22 7 × 版心本 لح 各

- 15 13 行 21 字 紙本大·四冊。茶色無地表紙22·4×14·7、左肩無辺題簽墨書。左右双辺有界 元傅習采集、 (16・5×11・4)。「輝伯」および秘閣図書之章①・宮内省図書印①押 孫存吾編類、虞集校選。室町時代覆元刊 (五山版)。 和装・半
- 16 もそれを引継ぐが、 織茂三郎「蓬左文庫の蔵書印-は本書をもとにした記述))、果してそうなのだろうか。おそらくこの説の初出は 『書陵部蔵書印譜』下(一九九七年(『新編蔵書印譜』(青裳堂書店、 この 一九八二年)であり、 「内府蔵書」印は通説では尾張藩の蔵書印だとされるが 明確な根拠は示されていない。 『蓬左文庫図録』(名古屋市教育委員会、 ーその7. 「張藩図書」と「内府蔵書」」(『蓬左』 一九八三年 二〇〇一年) (図書寮叢刊
- 17 明兪允文撰、 程善定校。 明万暦 (十一年序) 刊。 線装・半紙本大・八冊。

濃

- よび秘閣図書之章①・宮内省図書印①押捺 辺有界9行18字 (19・3×13・8)、版心に刻工名。 朱色亀甲繋地龍文艷出表紙25·6×16·8 (二本取)、 「内府蔵書」「王業浩印」 左肩単辺刷題簽。 四周 お
- 閣図書之章①・宮内省図書印①押捺 傍注・圏点を刻す。大尾に謄手・刻工名あり。 ×17·6、左肩朱色無辺題簽墨書。左右双辺有界9行17字 明張弼撰。 明正徳 (十三年序) 刊。 線装・大本・八冊。 「内府蔵書」「王業浩印」および秘 18 2 × 12 · 1 茶色無地表紙28・1

18

- 19 卍繋文型押表紙25·7×15·3、 (20・2×12・5)。「内府蔵書」「王業浩印」および宮内省図書印①押捺 明許獬撰、 明許鸞等編。 明 〔崇禎十三年〕 左肩無辺題簽墨書。 刊。 線装・半紙本大・四冊。 左右双辺有界9 香色
- 20 書印①押捺 1)、版心に刻工名。 表紙30·5×17·5、左肩無辺題簽墨書。四周双辺有界9行20字(21 明余継登撰、明馮琦校。明万暦三〇年序刊。線装・大本・六冊。 「内府蔵書」「家在雲間」および秘閣図書之章①・宮内省図 海松色無地 0 × 14
- 21 ① · 宮内省図書印①押捺。 表紙26·7×16·1 (二本取)、左肩黄色無辺題簽墨書。四周単辺有界10行20字 (18·5×13·0)。「内府蔵書」「王業浩印」「太政官文庫」 明蔣冕撰、明殷従倹輯。明嘉靖三十四年序刊。 線装・大本・八冊。 および秘閣図書之章
- 22 宮内省図書印①押捺 ×13・3)。序に刻工名あり。 29·5×16·5 (三本取)、 明汪淮撰、 明万暦十四年序刊。線装・大本・四冊。 左肩無辺題簽墨書。左右双辺有界10行18字 「内府蔵書」「家在雲間」および秘閣図書之章①・ 薄茶色卍繋文型押表紙 19 0
- 23 図書之章①・宮内省図書印①押捺 花文艷出表紙28·1×17·5 (二本取)、 10 7619字 明皇甫汸撰、明皇甫楙等校。明万暦三年序刊。線装・大本・二〇冊。 (18·0×12·2)。「内府蔵書」 左肩双辺刷題簽中墨書。 「王業浩印」および佐伯毛利①・秘閣 左右双辺有界
- 24 唐駱賓王撰、 明熊人霖校。明崇禎十三年序刊。 線装・半紙本大・二冊。 香色

12 9 ` 無地表紙25·7×16·1、 傍点・圏点・欄外頭注を刻す。「石室分蔵」および秘閣図書之章①・宮 左肩無辺題簽墨書。四周単辺無界8行19字 19 3 ×

- 25 内省図書印①押捺 句読点・傍点・圏点・欄外頭注を刻す。「石室分蔵」および秘閣図書之章①・宮 繫文型押表紙、左肩香色無辺題簽墨書。 宋宗沢撰、 明熊人霖校。明崇禎十三年序刊。 四周単辺無界8行19字 線装・半紙本大・二冊。 18 6 × 12 7 縹色卍
- 18字 (19・1×12・5)、傍点圏点・欄外上注あり。秘閣図書之章①押捺。 無地表紙25·8×16·3、 明彭韶編、 明熊人霖考繹。 左肩双辺刷題簽中墨書。 明崇禎十六年序刊。 封面あり。四周単辺有界8行 線装・半紙本大・二冊。 香色
- 27 25·6×16·3 (二本取)、左肩打付外題。四周双辺有界9行21字 (20·1× 14・1)、版心に刻工名。秘閣図書之章①押捺。 明熊人霖増修。明崇禎十三年刊。線装・半紙本大・六冊。 黄朽葉色無地表紙
- 28 24·8×16·4、左肩双辺刷題簽中墨書。左右双辺有界9行20字(19·3×13· 林熊九岳九勅/較刻于雨錢山房」。 1)、文集にのみ句点。第四冊首佐伯毛利①印押捺。刊記「崇禎十六年仲冬/書 明熊人霖著。明崇禎十六年刊。線装·半紙本大·六冊。黄朽葉色無地表紙
- に字数。「潁川」「磐生」および秘閣図書之章①・宮内省図書印①押捺 唐王績撰、明曹荃校。明崇禎十四年序刊。線装・大本・一冊。黄朽葉色無地 左肩双辺刷題簽中墨書。左右双辺有界9行18字(20·0×13·5)、 版心
- 版心に字数。「潁川」「磐生」および秘閣図書之章①・宮内省図書印①押捺。 繋地龍文艶出表紙、左肩無辺題簽墨書。左右双辺有界9行18字(19·5×13·5)、 唐宋之問撰、明曹荃校。明崇禎十三年序刊。線装・大本・一冊。海松色亀甲
- 版心に字数。 (二本取)、左肩黄色無辺題簽墨書。左右双辺有界9行18字 唐李邕撰、 「潁川」 明曹荃校。明崇禎十三年序刊。線装・大本・一冊。香色無地表紙 「磐生」および秘閣図書之章①・宮内省図書印①押捺 19 8 × 13 5)
- 唐蕭穎士撰、 明曹荃校。 明崇禎十三年序刊。 線装・大本・一冊。 香色無地表

「潁川」「磐生」および秘閣図書之章①・宮内省図書印①押捺 紙、 左肩無辺題簽墨書。左右双辺有界9行18字 20 0 × 13 · 4 版心に字数。

33

- 恩の瀆職を劾す。 時政を疏陳して旨に忤ひ、 曹荃は、 「曹荃」)。 「明、 福建副使に至る。〔明詩紀事、 無錫の人。字は元宰。 詹事府錄事に謫せらる。 崇禎の進士。 辛、十九〕」という(『大漢和辞 後、 南京刑部主事に除せら 大理寺寺副に遷り、 黄應
- 文集』 川」はあるが「磐生」はない。 もに「磐生」印が捺され、『龍筋鳳髓判注』 (55-75)、『元人集十種』(55-97)、『元詩体要』(55-10) 両印とも捺されている本として他に『龍川文集』 *1 (55-52) は「潁川」印とではなく、 朱方印「茂綠軒印」(篆文陰刻)とと (55-3、子部) は他印とともに「潁 555 53 がある。なお『水心 『太泌山房集』

34

- 13 4 地表紙26·6×16·4、左肩無辺黄色題簽墨書。左右双辺有界10行22字 宋陳亮撰、 版心に刻工名・字数。「潁川」「磐生」および秘閣図書之章①・宮内省図書印 明史朝富編刻、徐鑑校正、 黄日煦校。 明刊。 線装・大本・ ・八冊。 19 5 ×
- *2 明李維禎撰。明万曆三十九年序刊。線装・大本・四七冊。 17·0、左肩双辺刷題簽中墨書。四周単辺有界10行21字(21·0×4·0)。朱筆書入 あり。「潁川」「磐生」および秘閣図書之章①・宮内省図書印①押捺 香色無地表紙27·0×
- 3 葉色無地表紙26・6×17・1、左肩双辺刷題簽中墨書。封面あり。左右双辺有界9行 元元好問詩集、薩都刺詩集、顧阿瑛宝山草陶宗儀集、 廼賢集、張雨史集、宋無元元好問遺山先生薩都刺薩天錫顧阿瑛玉山草陶宗儀南邨詩廼賢金臺張雨句曲外宋無 (18・5×13・1)。 「潁川」 「磐生」および秘閣図書之章①・宮内省図書印①押捺。 倪瓚住詩集「撰。明崇禎十一年序刊(汲古閣本)。線装・大本・一三冊。黄朽
- 左肩双辺刷題簽中墨書。四周双辺有界9行18字(20·9×13·3)。朱筆書入。「潁川 「磐生」および秘閣図書之章①・宮内省図書印①押捺 明宋緒編選。明正徳十四年序刊。線装・大本・一〇冊。香色無地表紙26・8×16・0
- 16 宋葉適撰。明正統十三年序刊。線装・半紙本大・八冊。 4 左肩無辺黄色題簽墨書。 四周単辺有界9行19字 19 7 × 13 · 3 ° 縦横刷毛目表紙25・6× 茂綠軒

印」「磐生」および秘閣図書之章①・宮内省図書印①押捺。

- 秘閣図書之章①・宮内省図書印①押捺。 有界9行18字(19・8×13・3)、版心に刻工名・字数。「潁川」「磐生」および本・六冊。黄朽葉色無地表紙26・6×16・4、左肩双辺刷題簽中墨書。左右双辺の 唐楊烱・駱賓王・王勃・盧照隣撰、明張爕纂。明崇禎十三年序刊。線装・大
- 36 の)および『初唐四子集』がある。 があり、編書に『七十二家集』(楚・漢魏六朝・北朝・隋の諸氏の集を集めたも ある。崇禎十三年(一六四〇)没。享年六七。著作には『東西洋考』(一二巻)・ 学識者)と称された。群書をよく読み、経史諸子に通じ、博覧強記だったようで にも勧められたが固辞して「徴君」(朝廷から礼をもって招かれながら仕えない 年の挙人で、天啓年間に何喬により『明実録』編纂の構成員に推薦され、 翻字及び訳注」(『福山大学人間文化学部紀要』 六、二〇〇六年)に、 (一五七四) 生れ。漳州府龍渓の人。父は鎮江府同知だった張廷榜。 して略歴と著作が紹介されている。以下同解説を基に略述しておく。 『羣玉楼集』(八四巻)・『霏雲居集』(五四巻)・『霏雲居続集』(六六巻)・『閩中記』 張爕については、 久保卓哉・彭臘梅 「明張燮輯 『七十二家集』陳後主集題辞 万暦二十二 【解説】と 万暦二年 諸名士
- ぬが、穿ちすぎだろうか。よくある行数字数ではあるけれども。(37) この両書ともに毎半9行18字であることは、ここまでくると無関係とは思え
- (38) 元黄溍撰、明宋濂輯、虞守愚校刊、張倹編次。明嘉靖十年序刊。線装・半紙の、元黄溍撰、明宋濂輯、虞守愚校刊、張倹編次。明嘉靖十年序刊。線装・半紙の、元黄溍撰、明宋濂輯、虞守愚校刊、張倹編次。明嘉靖十年序刊。線装・半紙
- 1)Fuse。 8)中書写9行18字)。傍注、欄外上部頭注あり。秘閣図書之章①・宮内省図書7×16・1、左肩無辺題簽墨書。藍格鈔本(四周双辺無界刷用箋(19・7×12・(39) 唐李嶠撰、明張爕纂。明鈔。線装・大本・三冊。浅蔥色卍繋文型押表紙29・
- (40) 唐張九齢撰、明張爕纂。明鈔。線装·大本·三冊。香色卍繋文型押表紙29

- 8)中書写9行18字)。傍注、欄外上部頭注あり。秘閣図書之章①・宮内省図書6×16・1、左肩無辺題簽墨書。藍格鈔本(四周双辺無界刷用箋(19・6×12・
- 畸人」「懐玄」および秘閣図書之章①・宮内省図書印①押捺。 17・0、左肩無辺題簽墨書。9行18字(18・0×12・9)。墨朱書入あり。「松陵(2) 明薜蕙撰。明嘉靖十四年序刊。線装・大本・二冊。灰色無地表紙25・6×
- 二〇一七年)。 (4) 臼井「図書寮蔵義堂周信著作二題」(『空華日用工夫略集の周辺』、義堂の会、
- (45) ジェームズ・レッグ(一八一五~九七)はスコットランドの宣教師。オックスフォード大学の初代中国学教授。一八種の漢文布教書を著し、儒教経典等を翻断のument of Hsí-an fû in Shen-hsí, China"といった著作がある(『岩波 世界人名大辞典』)。
- (4) 関西大学図書館の当該書書誌ページ (URL:https://www.lib.kansai-u
- (47) 「西尾市岩瀬文庫/古典籍書誌データベース」の『続会津資料叢書』(函番号WJJS07U/2321315100/2321315100100010/mp01715100) による。

別表 1 佐藤劉二(忠淳)年譜

	年		月	日	事項		満年齢
弘化	2年	(1845)	正月	10日	出生 (会津)		
明治	5年	(1872)	7月	23日	条約未済国課雇	(神奈川県)	(27歳)
明治	5年	(1872)	9月	1日	史生(判任官,外庁庶務課)	(神奈川県)	(27歳)
明治	6年	(1873)	10月	21日	神奈川県十三等出仕	(神奈川県)	(28歳)
明治	7年	(1874)	2月	4日	外務課	(神奈川県)	(29歳)
明治	7年	(1874)	9月	3日	神奈川県十二等出仕	(神奈川県)	(29歳)
明治	9年	(1876)	1月	4日	庶務課	(神奈川県)	(31歳)
明治	10年	(1877)	1月	18日	神奈川県七等属	(神奈川県)	(32歳)
明治	10年	(1877)	1月	18日	第一課	(神奈川県)	(32歳)
明治	11年	(1878)	6月	1日	海軍省御用掛 (水路局)	(海軍省)	(33歳)
明治	11年	(1878)	6月	4日	水路局庶務課水路誌校正掛	(海軍省)	(33歳)
明治	12年	(1879)	5月	13日	水路局〔庶務課〕編訳掛	(海軍省)	(34歳)
明治	12年	(1879)	9月	18日	水路局庶務課記録掛	(海軍省)	(34歳)
明治	13年	(1880)	7月	7日	海軍五等属	(海軍省)	(35歳)
明治	15年	(1882)	5月	3日	免官	(海軍省)	(37歳)
明治	17年	(1884)	9月	8日	駅逓局御用掛	(駅逓局)	(39歳)
明治	17年	(1884)	9月	8日	駅逓局運輸課事務取扱	(駅逓局)	(39歳)
明治	18年	(1885)	3月	12日	総官官房取調科事務取扱	(駅逓局)	(40歳)
明治	18年	(1885)	4月	7日	検定委員に選定	(駅逓局)	(40歳)
明治	18年	(1885)	5月	16日	総官官房報告科兼取調科事務取扱	(駅逓局)	(40歳)
明治	19年	(1886)	3月	5日	逓信五等属	(駅逓局)	(41歳)
明治	19年	(1886)	5月	1日	逓信属 (判任官五等)	(駅逓局)	(41歳)
明治	20年	(1887)	1月	11日	郵便法草案審査委員に選定	(駅逓局)	(42歳)
明治	21年	(1888)	4月	23日	内閣属(判任官五等), 内閣記録局勤務	(内閣)	(43歳)
明治	23年	(1890)	3月	22日	判任官三等	(内閣)	(45歳)
明治	24年	(1891)	3月	26日	図書属(判任官三等), 〔図書寮〕図書課勤務	(宮内省)	(46歳)
明治	30年	(1897)	12月	15日	図書課長	(宮内省)	(52歳)
明治	33年	(1900)	12月	14日	〔判任官〕二等	(宮内省)	(55歳)
明治	34年	(1901)	9月	30日	職務上不注意につき譴責処分	(宮内省)	(56歳)
明治	39年	(1906)	4月	20日	従七位	(宮内省)	(61歳)
明治	39年	(1906)	7月	2日	勲八等瑞宝章	(宮内省)	(61歳)
明治	41年	(1908)	1月	7日	図書課長心得 (官制改正による)	(宮内省)	(62歳)
明治	41年	(1908)	5月	6日	図書課勤務	(宮内省)	(63歳)
明治	42年	(1909)	8月	5日	判任官一等	(宮内省)	(64歳)
明治	42年	(1909)	8月	5日	宮内官分限令第6〔条〕第1項第4号により休職命令	(宮内省)	(64歳)
明治	43年	(1910)	8月	4日	休職満期	(宮内省)	(65歳)

来歴志	収書年次	登録 番号	旧御物		引継時		日函号 (明治)	旧函号 (大正)	家別	印譜「紅葉 山文庫」	備考
/// 取	幕初(駿)	新 万 7213	170	在	99	甲	507	貴	秘	— 以及/學」 — X	
	文政11 (佐)	7080	0	在	84	甲	491	貝 な79	秘	(1)	
	文政11 (佐)	7079	0	在	84	甲	491	な79	120	X	
	文政11 (佐)	7078	0	在	84	审	491	な79	秘	1	
	文政11 (佐)	7077	0	在	84	审	491	な79	佐	X	
	文政11 (佐)	7087	0	在	85	申	492	な80	佐	×	
×	文政11(佐)	7091	0	在	85	甲	492	な80	秘	(1)	
	文政11 (佐)	7081	Ō	在	85	甲	492	な80	佐	×	
	寛文11 (御)	7089	0	在	85	甲	492	な80	秘	1)	
	嘉永2(新)	7082	0	在	85	甲	492	な80		×	
	寛文11 (御)	7088	0	在	85	甲	492	な80	秘	1)	
0	天保7以前(重)	7085	0	在	85	甲	492	な80	秘	1)	
×	享保元以前 (官)	7092	0	在	85	甲	492	な80	秘	1)	
0	文政11 (佐)	7086	0	在	85	甲	492	な80	佐	×	
	文政11(佐)	7083	0	在	85	甲	492	な80	佐	×	
×	享保元以前(官)	7090	0	在	85	甲	492	な80	秘	1	
×	享保元以前 (官)	7094	0	在	86	甲	493	な81	秘	1)	
0	寛文11 (御)	7102	0	在	86	甲	493	な81		×	
0	文政11(佐)	7095	0	在	86	甲	493	な81	秘	1	
	文政11 (佐)	7096	0	在	86	甲皿	493	な81	秘	1	
0	文政11 (佐)	7097	0	在	86	甲	493	な81	秘	1	
	寛文11(御)	7098	0	在左	86	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	493	な81	秘	1	
	享保元以前(官)	7101	0	在	86	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	493	な81	秘	1	
0	享保元以前(官)	7099	0	在	86	甲	493	な81	秘	1	
0	文政11 (佐)	7100	0	在	86	甲	493	な81	秘	1)	
×	享保元以前(官)	7107 7106	0	在在	88 88	甲甲	495 495	な83 な83	秘 秘	<u>1</u>	
×	天保7以前(重)	7111	0	在	89	甲甲	495	な84	190	X	
×	文政11(佐)	7111	0	在	89	甲	496	な84	佐	×	
×	文政11 (佐)	7110	0	在	89	甲	496	な84	佐	(1)	
	文政11(佐)	7112	0	在	89	甲	496	な84	佐	X	
×	文政11 (佐)	7116	0	在	89	申	496	な84	佐	×	
×	承応元 (御)	7114	0	在	89	甲	496	な84	秘	(1)	
×	文政11 (佐)	7115	0	在	89	审	496	な84	秘	1 · 3	
	享保元以前(官)	7214	Ō	在	100	甲	508-509	な85	秘	(1)	
0	文政11(佐)	7215	0	在	101	甲	510-511	な86	秘	1)	
	嘉永2(新)	7084	0	在	85	甲	492	な80	秘	1)	
0	文政11(佐)	7218	0	在	104	甲	(513)	貴	秘	1)	
0	幕初(駿・御)	7222	×	在	106	甲	515	か33	秘	1)	
0	幕初(駿・御)	7230	0	在	113	甲	522	か34	秘	1	
0	幕初(駿・御)	7219	0	在	105	甲	514	さ40	秘	1)	
0	幕初 (駿・御)*	7220	×	在	105	甲	514	さ40	秘	1	
	幕初(験・御)	7221	0	在	105	甲	514	さ40 ざ40	秘	1	
	幕初(駿・御)	7217	0	在	103	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	513	さ39	秘	1	
	幕初(駿・御)	7223	0	在左	107	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	516	さ41 さ42	秘	1	
	幕初(駿・御)	7225	0	在左	109	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	518	さ43 ×42	秘	1	
0	幕初 (駿·御) 幕初 (駿·御)	7224 7227	0	在在	108 111	甲甲	517 520	さ42 さ44	<u>秘</u> 秘	<u>1</u>	
	幕初(験・御)	7228	0	在	111	甲甲	520	さ44 さ45	秘秘	(1)	
	幕初(駿・御)	7229		在	112	甲甲	521	さ45 さ45	秘	1	
×	新·阿· (版· 阿) 承応2 (御)*	7117	0	在	90上	甲甲	497	た43 た43	秘	1	
×	明和5以前(書)	7117	0	在	90上	甲	497	た43	秘	1	
×	正保2(御)	7119	0	在	90上	甲	497	た43	秘	(1)	
×	享保8以前(府)	7120	Ö	在	90上	甲	497	た43	秘	(1)	
×	明和5以前(書)	7121	Ö	在	90上	审	497	た43	-	×	
×	万治元(御)	7122	Ö	在	90上	甲	497	た43	秘	1)	
×	明和5以前(書)	7129	0	在	90上	甲	497	た43	秘	1)	

図書寮蔵紅葉山御文庫目録(集部)

函架	TH 47.44 b		刊伝	口 北	〈元治増補〉(楓山文庫)	御書籍目録
番号	現行書名		刊写	員数	書名	分類
400-2	文選	宋版	(補写)	61	六臣註文選	総文選
404-33	〈増刊校正王状元集註分類〉東坡先生詩	朝鮮版	(銅活)	14	百家注分類東坡詩	別集上
404-34	〈王状元集百家註分類〉東坡先生詩	元版		25	別本百家注分類東坡詩	別集上
404-35	張説之文集	明写		6	張説之文集	別集上
404-36	〈分類補註〉李太白詩	元版	(至大3年版)	13	分類補注李太白詩	別集上
404-37	西翁近稿	元版	(延祐7年版)	1	西翁近稿	別集上
404-38	徐文長逸稿	明版		4	徐文長逸稿	別集上
404-39	〈増広音註〉許丁卯詩集	元版		2	丁卯詩集	別集上
404-40	兪仲蔚集	明版	(万暦版)	8	兪仲蔚集	別集上
404-41	王文公文集	宋版	(金沢文庫本)	14	別本臨川集	別集上
404-42	張東海集	明版	(正徳版)	8	張東海集	別集上
404-43	陸放翁詩集	明版	(嘉靖13年版後印)	2	陸放翁詩選	別集上
404-44	戴星集	明版	(嘉靖版)	1	戴星集	別集下
404-45	村西集	元版	(皇慶元年版)	4	村西詩文集	別集上
404-46	王荊文公詩	元版	(大徳10年版)	13	王半山詩注	別集上
404-47	帰有園稿	明版	(万暦版)	8	帰有園稿	別集上
404-48	李翰林集	明版		4	李翰林集	別集上
404-49	叢青軒集	明版		4	叢青軒集	別集下
404-51	〈箋註〉唐賢三体詩法	明版	(官版)	3	三体詩	総詩抄
404-52	練公文集	明版	(万暦37年版)	2	練公文集	別集上
404-53	皇甫司勲集	明版	(万暦版)	20	皇甫司勲集	別集上
404-54	淡然軒集	明版	(万暦30年版)	6	淡然軒集	別集下
404-55	愧瘖集	明版	(万暦4年版)	6	愧瘖集	別集上
404-56	唐詩帰	明版		18	唐詩帰	総詩抄
404-57	元文類	元版	(至正2年版,明成化) 9年修,元禄13補写)	32	元文類	総詩文鈔
404-60	皇元風雅	五山版	(覆元版)	4	元風雅	総詩抄
404-61	欧陽文忠公集	元版		12	別本欧陽文忠集	別集上
404-65	圭斎文集	明版		7	圭斎文集	別集上
404-66	金台集	元版	(至正版)	1	金台集	別集上
404-67	楽府詩集	元版		32	楽府詩集	総楽府
404-68	〈王状元集百家註分類〉東坡先生詩	宋版		14	百家注分類東坡詩	別集上
404-69	南海集	宋版	(淳熙13年版,補写)	2	南海集	別集上
404-70	〈新編事文類聚〉翰墨大全	明版		12	翰墨大全	尺啓彙
404-71	四六発遣膏馥(後集巻5缺)	宋版	(補写)	8	四六膏馥集	四六
404-72	石倉十二代詩選	明版	(崇禎3·4年版)	331	石倉十二代詩選	総詩抄
404-73	朱子大全文集	朝鮮版	(銅活,補写)	95	- 晦菴文集	別集上
500-6	〈崔舎人〉玉堂類藁 附:柴邦彦鑑定記	宋版			玉堂類稿	別集上
500-7	宋景文集 一名:景文宋公集	宋版			宋景文集	別集上
506-37	紫陽文集	朝鮮版	/ 去非に)	10	紫陽文集	別集上
506-38	湖陰雑稿	朝鮮版 朝鮮版	(嘉靖版)	8	湖陰雑稿	附韓集
511-42	芝 辞		(覆元版)	3	楚詞集注 四本際禁祭集	楚辞 1.
511-43	陶靖節集	明版 朝鮮版	(万暦15年版) (正統5年版)	4	別本陶靖節集	別集上
511-44 511-45	突川又集炎社 〈分類補註〉李太白詩	朝鮮版	(銅活)	15	別本樊川文集 補注李白集	別集上 別集上
511-45	南軒文集	朝鮮版	(銅活)	10		別集上
511-40	真西山文集	朝鮮版	(銅活)	15		別集上
511-47	文山文集	朝鮮版	(銅活)	15		別集上
511-40	唐音	朝鮮版	(銅活)	10		総詩抄
512-4		朝鮮版	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	6		附韓集
512-4	皇華集	朝鮮版		5		附韓集
555-27	東華朱	明版		2	東京 東開府詩集	別集上
555-28	東皐子集	明版	(崇禎14年版)	1	東皐子集	別集上
555-29		明版	(崇禎13年版)	2	*** *** *** *** *** *** *** *	別集上
555-30	李趙公集	明写	, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	3	李嶠集	別集上
555-31	宋学士集	明版	(崇禎14年版)	1	宋学士集	別集上
555-32	張曲江集	明写	7.122-1702		別本曲江集	別集上
555-33	李北海集	明版	(崇禎14年版)	1	李北海集	別集上
	1				1	

来歴志	収書年次	登録 番号	旧御物		引継時		田函号 明治)	旧函号 (大正)	家別	印譜「紅葉 山文庫」	備考
×	文政11 (佐)	7124	0	在	90上	甲	497	た43	秘	1)	
×	文政11 (佐)	7125	Ō	在	90上	甲	497	た43	秘	1	
×	享保元以前(官)	7126	×	在	90上	甲	497	た43		1	
×	文政11(佐)	7127	0	在	90上	甲	497	た43	秘	1	
×	万治3(御)	7128	0	在	90上	甲	497	た43	秘	1 · 3	
×	明和5以前(書)	7136	0	在	91	甲	498	た44	秘	(1)	
×	文政11(佐)	7137	0	在	91	甲	498	た44	秘	1)	
×	万治2(御)	7138	×	在	91	甲	498	た44	秘	1	
×	文政11 (佐)	7139	×	在	91	甲	498	た44	秘	(1)	
×	文政11 (佐)	7140	0	在	91	甲	498	た44	秘	(1)	
×	文政11 (佐)	7141	Ō	在	91	甲	498	た44	秘	(1)	
×	享保元以前(官)	7142	Ō	在	91	甲	498	た44	秘	1	
×	文政11 (佐)	7143	Ō	在	91	甲	498	た44	秘	(1)	
×	文政11 (佐)	7144	×	在	91	审	498	た44	秘	(1)	
×	享保元以前(官)	7145	0	在	91	审	498	た44	秘	1	
×	正保2(御)	7146	0	在	91	审	498	た44	秘	1	
X	明暦3(御)	7147	0	在	91	甲	498	た44	秘	1)	
×	正保3(御)	7148	0	在	91	甲	498	た44	秘	(1)	
×	享保元以前(官)	7149	0	在	91	甲	498	た44	秘	(1)	
×	文政11(佐)	7149	0	在	91 (90) 下	甲	499	た45	秘	(1)	
×	文政11 (佐)	7130		在	91 (90) 下	甲	499	た45 た45	秘	1 . 3	
×	文政11 (佐)	7131	0	在	91 (90) 下	甲	499	た45 た45	佐	(1)	
×	文政11 (佐)	7132	×	在	91 (90) 下	甲	499	た45	佐	×	
+ ^	文政11 (佐)	7133	Ô	在	91 (90) 下	甲	499	た45 た45	秘	1	
X	文政11 (佐)	7134		在	91 (90) 下	甲	499	た45 た45	秘	1	
×	享保元以前(官)	7150	0	在	92	甲	500	た45 た46	秘	1	
×	慶安4(御)	7150	0	在	92	甲	500	た46	秘	(1)	
+				在		甲甲			秘	3	
×	文政11 (佐) 文政11 (佐)	7152	0	在	92 92	甲甲	500	た46	秘 秘	(1)	
×	文政11(佐)	7153	0	在在	92	甲甲	500	た46		(1)	
×	寛文11(佐)	7154 7155	0	在	92	甲甲	500 500	た46 た46	<u>秘</u>	(1)	
×	幕初 (御)*			_		甲甲					
×		7156	0	在左	92	_	500	た46	秘	1 · 3	
×	文化4 (化)*	7157	0	在左	92	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	500	た46	秘	1	
×	天保7以前(重)	7158	0	在左	92	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	500	た46	秘	1	
×	承応元 (御)*	7159	0	在左	92	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	500	た46	秘	1	
×	承応2(御)	7160	0	在	92	甲	500	た46	秘	1	
×	寛文元(御)	7161	0	在	92	甲	500	た46	秘	1	
X	天保7~元治2(重 + 元)		0	在	92	甲	500	た46	秘	1)	
X	享保元以前(官)	7163	0	在	93甲	甲	501	た47	秘	1	
×	文政11 (佐)	7173	0	在左	93甲	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	501	た47	秘	1	
×	正保3 (御)	7167	0	在左	93甲	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	501	た47	秘	1	
×	文政11 (佐)	7164	0	在	93Z	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	502	た48	秘	1	統合整理
×	文政11 (佐)	7165		在	93乙	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	502	た48	秘	1	
×	承応2(御)	7166	0	在左	93乙	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	502	た48	秘	1	
×	明和5以前(書)	7168	0	在左	93乙	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	502	た48	秘	1	
×	文政11 (佐)	7186	0	在左	93乙	甲	502	た48	佐	X	
×	承応2(御)	7187	0	在	93乙	甲	502	た48	秘	1	
×	享保元以前(官)	7170	0	在左	94	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	503	た49	秘	1	
×	正保3 (御)*	7171	0	在左	94	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	503	た49	521	X	
X	文政11 (佐)	7180	0	在左	94	甲	503	た49	秘	1)	
×	文政11 (佐)	7172	0	在	94	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	503	た49	秘	1)	
×	明和5以前(書)	7169	0	在左	94	甲田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	503	た49	秘	1)	
×	文政11(佐)	7174	0	在	94	甲	503	た49	佐	×	
×	享保元以前(官)	7175	0	在	94	甲	503	た49	秘	1	
X	享保元以前(官)	7176	0	在	94	甲	503	た49	秘	1	
X	享保元以前(官)	7177	0	在	94	甲	503	た49	秘	1	
×	文政11 (佐)	7178	0	在	94	甲	503	た49	秘	1	
×	文政11 (佐)	7179	0	在	94	甲	503	た49	秘	1)	
X	享保8以前(府)	7181		在	94	甲	503	た49	\Box	×	

函架	現行書名		 刊写	員数	〈元治増補〉(楓山文庫)	御書籍目録
番号	以11百石 		刊 <i>争</i> 	貝奴	書名	分類
555-35	昌黎先生詩集注	清版	(康熙38年版,補写)	4	韓詩集注	別集上
555-36	元氏長慶集	明版	(万暦32年版)	7	元氏長慶集	別集上
555-37	柳河東集	明版		12	別本柳河東集	別集上
555-38	河東先生集 一名:柳河東集	明版	(嘉靖模宋版)	20	別本柳河東集	別集上
555-39	太乙山房文集	明版	(崇禎6年版)	7	太乙山房全集	別集下
555-40	蕭文元集	明版	(崇禎13年版)	1	蕭文元集	別集上
555-41	樊川文集	明版	(覆宋版)	6	樊川文集	別集上
		明版	(復不瓜)	_		
555-42	杜樊川文集		/ +674 = 6-11C	2	別本樊川文集	別集上
555-43	安陽集	清版	(乾隆5年版)	8	安陽集	別集上
555-44	宛陵先生文集	明版		20	宛陵集	別集上
555-45	山谷老人禅喜集	明版		1	山谷禅喜集	別集上
555-46	西塘先生文集	明版	(万暦37年版)	4	西塘文集	別集上
555-47	後山先生集	明版	(弘治12年版)	4	後山先生詩集	別集上
555-48	石門文字禅	清版	(康熙19~21年版)	6	石門文字禅	別集上
555-49	栟櫚文集	明版	(万暦34年版)	3	栟櫚文集	別集上
555-50	宗忠簡公集	明版	(崇禎13年版)	2	宗忠簡集	別集上
555-51	梅渓先生文集	明版	(正統5年版)	10	王梅渓集	別集上
555-52	水心文集	明版		8	水心文集	別集上
555-53	龍川文集	明版		8	龍川文集	別集上
555-54	泰泉集	明版	(万暦元年版)	20	泰泉集	別集上
555-55	文則	明版	(嘉靖34年版)	8	文則	総文抄
555-56	石堂遺集	明版	(万暦3年版)	7	石堂遺集	別集上
555-57	林屋詩稿	清版		16	林屋詩文稿	別集下
555-58	文選補遺	清版	(乾隆2年版)	16	文選補遺	総文選
555-59	戴司成集	明版	(万暦34年版)	4	戴司成集	別集下
555-60	劉須渓記鈔	明版	(天啓3年版)	2	劉須渓記抄	別集上
555-61	海瓊玉蟾先生文集	明版		6	白玉蟾文集	別集上
555-62	黄文献公文集	明版	(嘉靖10年版)	6	黄文献集	別集上
555-63	篁墩程先生文集	明版	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	20	篁墩文集	別集上
555-64	戒養文集	明版		6		別集上
			(古共0.4年年)			
555-65	湘阜集	明版	(嘉靖34年版)	8	湘阜集	別集上
555-66	石田詩選	明版	(弘治17年版)	4	石田詩選	別集上
555-67	周恭粛公集	明版	(嘉靖28年版)	4	周恭粛集	別集上
555-68	儼山文集	明版	(嘉靖25年版)	12	儼山詩文集	別集上
555-69	費文通公集選	明版	(万暦12年版)	4	費文通集選	別集上
555-70	薛考功集	明版	(嘉靖14年版)	2	薛考功集	別集上
555-71	王遵嚴家居集	明版	(嘉靖31年版)	3	王遵嚴家居集	別集上
555-72	古狂馮侍御芻蕘録	明版	(隆慶2年版)	10	馮侍御芻蕘録	別集上
555-73	天目先生集	明版	(万暦12年版)	10	天目集	別集上
555-74	洞陽子集	明版	(万暦元年版)	16	洞陽子集	別集下
555-75	太泌山房集	明版	(万暦39年版)	47	太泌山房集	別集下
000-10	A.你山历末	ウカルス	八月月35千瓜	47	月峰先生居業	別集下
555-76	月峰先生居業	明版	(万暦版)	-		
			1	5	月峰居業次編	別集下
555-77	五嶽山人集	明版	/	8	五嶽山人集	別集上
555-78	豊対楼詩選	明版	(万暦24年版)	12	豊対楼詩選	別集下
555-79	嶺南文献軌範補遺	明版		6	嶺南文献補遺	総文抄
555-80	東壁図書府	明版	(嘉靖31年版)	5	東壁図書府	総詩全
555-81	白蘇斎類集	明版		4	白蘇斎集	別集下
555-82	珂雪斎集選	明版	(天啓2年版)	16	珂雪斎集選	別集下
555-83	厳太僕詩集	清版	(乾隆元年版)	2	厳大僕詩集	別集下
555-84	井丹先生集	明版	(万暦19年版)	10	井丹集	別集下
555-85	証学編	明版	(万暦24年版)	4	証学編	別集下
555-86	檀雪斎集	明版	(崇禎元年版)	12	檀雪斎集	別集下
555-87	端簡鄭公文集	明版	(万暦28年版)	14	鄭端簡集	別集下
555-88	區太史詩稿	明版	(万暦版)	4	區太史詩稿	別集下
555-89	汪禹乂集	明版	(万暦14年版)	4	汪禹乂集	別集下
555-90	梅村集	清版	(順治17年版)	4	梅村詩集	別集下
1 = = = 0.1	寒村詩文選	清版		14	寒村詩文選	別集下
555-91 555-92	蠙衣生粤草	明版	(万暦42年版)	2	蠙衣生粤蜀草	余集

図書寮蔵紅葉山御文庫本目録(四)——集部——

来歴志 所載	収書年次	登録 番号	旧御 物		引継時		l函号 明治)	旧函号 (大正)	家別	印譜「紅葉 山文庫」	備考
×	幕初 (御)	7182	0	在	95	甲	504	た50		1)	
×	天保7~元治2(重 + 元)	7183	0	在	95	甲	504	た50	秘	2	林信貞献(書) の可能性あり
×	文政11(佐)	7184	0	在	95	甲	504	た50	秘	1)	
×	文政11(佐)	7185	0	在	96	甲	505	た51	佐	×	
×	正保3(御)	7188	0	在	96	甲	505	た51	秘	1)	
×	万治3 (御)*	7189	0	在	96	甲	505	た51	秘	1)	
×	文政11(佐)	7190	0	在	96	甲	505	た51	秘	1)	
×	文政11(佐)	7191	0	在	96	甲	505	た51	秘	1)	
×	寛文11 (御)	7192	0	在	97	甲	506	た52		×	
×	承応2(御)	7193	0	在	97	甲	506	た52		×	
×	明暦元 (御)	7194	0	在	97	甲	506	た52	秘	1)	
×	承応2(御)	7195	0	在	97	甲	506	た52		×	
×	享保元以前(官)	7196	0	在	97	甲	506	た52		×	
×	文政11(佐)	7197	0	在	97	甲	506	た52	佐	×	
×	幕初 (御)*	7198	0	在	97	甲	506	た52	秘	1)	
×	享保元以前(官)*	7199	0	在	97	甲	506	た52	秘	1 • 4	
×	明暦3(御)	7200	0	在	97	甲	506	た52		×	
×	享保8以前(府)	7201	0	在	97	甲	506	た52		×	
×	幕初 (御)	7202	0	在	97	甲	506	た52		×	
×	幕初 (御)	7203	0	在	97	甲	506	た52		×	
×	文政11(佐)	7204	0	在	97	甲	506	た52	秘	1)	
×	慶安3(御)	7205	0	在	97	甲	506	た52		×	
×	正保2or 寛文元(御)	7206	×	在	98	甲	506	た53	秘	1)	
0	文政11(佐)	7207	0	在	98	甲	506	た53	佐	×	
×	享保8以前(府)	7208	0	在	98	甲	506	た53	秘	1)	
×	享保元以前(官)	7209	0	在	98	甲	506	た53	秘	1)	
×	文政11(佐)	7210	0	在	98	甲	506	た53	佐	×	
×	天保7~元治2(重+元)	7211	0	在	98	甲	506	た53	秘	1)	
×	文政11(佐)	7212	0	在	98	甲	506	た53	佐	×	
	幕初(駿・御)	7216	0	在	102	甲	512	た54	秘	1)	
	幕初(駿・御)	7226	0	在	110	甲	519	た55	秘	2	

函架	現行書名		刊写	員数		御書籍目録
番号				7,30	書名	分類
555-93	〈六家〉文選	明版	(覆宋嘉靖28年版)	31	六家文選	総文選
555-94	古文真宝後集	古活字版	(慶長14年版)	2	古文真宝後集	総詩文鈔
555-95	全蜀藝文志	明版	(嘉靖20年版)	50	全蜀藝文志	総詩文鈔
555-96	古論大観	明版		31	古論大観	総文抄
555-97	元人集十種	明版	(崇禎11年版)	13	元人集十種	総詩全
555-98	万首唐人絶句	明版	(万暦35年版)	10	別本万首唐人絶句	総詩抄
555-99	唐詩品彙	明版	(官版,補写)	23	唐詩品彙	総詩抄
555-100	元詩体要	明版	(正徳14年版)	10	元詩体要	総詩抄
555-101	海岳霊秀集	明版	(万暦版)	10	海岳霊秀集	総詩抄
555-102	明詩選最	明版		3	明詩選最	総詩抄
555-103	詩源	清版		20	詩源	総詩抄
555-104	苑詩類選	明写		8	苑詩類選	総詩抄
555-105	雲間三子新詩合稿	清版		3	雲間三子新詩合稿	閏集
555-106	呉江沈氏詩集	清版	(乾隆5年版)	2	呉江沈氏詩録	閏集
555-107	南雍造士録	明版		2	南雍造士録	制科藝
555-108	甲辰十八房鈔	明版		2	甲辰十八房鈔	制科藝
555-109	詩話総亀	明版	(嘉靖23年版)	6	詩話総亀	詩文評
555-110	藝苑巵言	明版		2	藝苑巵言	詩文評
555-111	詩学権輿	明版	(成化5年版)	4	詩学権輿	詩文評
555-112	雍熙楽府	明版	(嘉靖19年版)	20	雍熙楽府	詞曲
555-113	橘山四六	明版	(万暦35年版)	8	橘山四六	四六
555-114	詞致録	明版	(万暦15年版,補写)	6	詞致録	尺啓彙
555-115	甔甀洞稿	明版	(万暦12年版)	20	甔甀洞稿	別集上
555-116	古今名媛彙詩	明版	(泰昌元年版)	8	名媛彙詩	閏集
555-117	雅音会編	明版	(天順7年版)	6	雅音会編	総詩抄
555-118	全唐風雅	明版	(万暦2年版)	10	全唐風雅	総詩抄
555-119	中州名賢文表	清版	(康熙45年版)	8	中州名賢文表	総文抄
555-120	初唐四子集	明版	(崇禎13年版)	6	初唐四子集	総詩文全
555-121	西漢文苑	明版	(万暦28年版)	14	西漢文苑	総文抄
555-122	読杜詩愚得	朝鮮版		15	読杜詩愚得	別集上
555-138	文章弁体	朝鮮版	(銅活)	22	文章弁体	総詩文鈔

合計 146部 1736点 来歷志所載 42部 877点

楚辞	楚辞類	黢	駿府御文庫本たるによる
別集上	別集類上	慶	慶長御写本たるによる
別集下	別集類下	桜	桜田御文庫本たるによる
余集	余集類	佐	佐伯毛利本たるによる
総文選	総集類文選之属	前	前田綱紀献本
総楽府	総集類楽府之属	新	新見正興献本
総詩文全	総集類詩文全録之属	近	近藤守重献本
総詩文鈔	総集類詩文鈔之属	本	御本日記
総文全	総集類文全録之属	来	来歴志
総文抄	総集類文抄之属	始	御文庫始末記
総詩全	総集類詩全録之属	H	御書物方日記
総詩抄	総集類詩抄之属	御	御文庫目録
閏集	閏集類	官	官庫書籍目録
制科藝	制科藝類	重+元	重訂目録と元治目録を併せ勘う
賦	賦類	実	徳川実紀
詩文評	詩文評類	寛	寛政重修諸家譜
詞曲	詞曲類	右	右文故事
四六	四六類	昆	昆陽漫録
尺啓彙	尺牘啓箋類彙集之属	人	人見竹洞全集所収紅葉山文庫日録
尺啓専	尺牘啓箋類専集之属	没	文政11幕府没収本
尺啓啓	尺牘啓箋類啓箋之属	書	御書目録
附韓集	附存部韓人著撰類集之属	府	官府書目